

2024年1月31日

2023年度聖路加国際大学大学院看護学研究科課題研究

学童の職員が児童対応において抱く困難感

Difficulties that After-school Program Staff

Have in Dealing with Children

学籍番号 22MN016

氏名 佐野美紀子

要旨

【目的】放課後児童クラブは児童の放課後の居場所として需要が増しており、児童を支援する放課後児童クラブ支援員らの存在は欠かせないものとなることとわかる。そこで本研究では学童で働く職員の、児童対応における困難感を明らかにすることを目的とした。

【方法】X市内の学童に所属する4名の職員を研究対象者とし、半構造化面接を行った。その後、逐語録を作成し、データを質的に分析した。データ収集期間は、西暦2023年9月15日～9月22日であった。本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認及び学長の実施許可を得て行った(承認番号23-A037)。

【結果】学童で働く職員が児童対応において抱く困難感について【子どもの成長発達を考慮した関わりの難しさ】【子どもへの注意の仕方を工夫しなければいけない】という「子ども」を対象として関わる上での難しさ、【児童一人一人の行動に対する関わりの難しさ】【障害のある児童や配慮が必要な児童に柔軟に対応する難しさ】【児童の属性を踏まえた関わりの難しさ】という児童一人一人の特性による難しさ、【集団という視点で子どもを支援する上での難しさ】【管理体制から見た児童対応の難しさ】という学童という環境による難しさ、【保護者を意識した関わりの難しさ】【学童を利用する児童の事情を考慮した関わりの難しさ】という保護者や家庭事情による難しさが抽出された。

【結論】本研究で抽出された困難感から、人材を確保するための体制整備や職員の質を担保するための人材育成、それに伴う関係職者らの連携について課題が見出された。

地域分析を行い事業及び施策へ反映することのほか、地域の関係職者らとの連携を図る行政の保健師として、放課後に子どもが安心して過ごすことができる環境を整えるためにも、安定した雇用を保障し人材を確保する体制を整えることや放課後児童健全育成事業の委託先事業者と密接な連携を図り、施設レベルでの研修体制を整え、職員等の資質向上を支援することが重要であることが示唆された。加えて、地域の教育関係者や保健師、地域社会と連携し、障害のある児童や配慮が必要な児童らへの対応について、支援ネットワークを構築して緊密な連携体制を整えることで、児童らが安心して過ごすことのできる環境を整えることが重要であることが示唆された。